

大学連携について



東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
副事務総長

布村 幸彦

大学連携とは

目的：

全国の大学と組織委員会が連携し、それぞれの資源を活用してオリンピック教育の推進や大会機運の醸成等に取り組む

連携大学数：

2020年 775大学（平成27年4月1日現在）

- ※ 2016年 招致活動では、9大学と締結
- ※ 2020年 招致活動では、86大学と締結

大学連携とは

大学連携協定締結式

2014年6月23日（月） 早稲田大学 大隈記念講堂

267大学の代表者が出席し、
キックオフセレモニーを開催



森喜朗組織委員会会長

「大学連携は、スポーツを通じて青少年を教育し世界平和に貢献する、まさにオリンピック憲章の精神を実践するもの。」



土井杏南（学生アスリート）

「大東文化大学に入学し、支援の中で競技に集中し、自立したアスリートとして一步を踏み出した。」



AISTS(※)マンソン会長

「2020大会開催に向けて素晴らしいスタートを切った。この集中力を称賛する。」

※AISTS (International Academy of Sports Science and Technology)
IOCが中心となって設立したスイス・ローザンヌにあるスポーツマネジメント大学院

大学連携とは

記念シンポジウム

2014年6月23日（月） 早稲田大学 大隈記念講堂

連携協定締結式に引き続き、「開催に向けて大学ができること」をテーマに意見交換

武藤事務総長による講演

「大学連携を一過性に終わらせず、新しいオリンピック・レガシーとして残るものにしていきたい」



真田久（筑波大学教授）

「大学の持つ資源、専門性を活用し、それぞれの大学で最低1コマ、オリンピックについて学ぶ時間を設けてもらいたい。」



AISTSストリッカー事務局長

「専門家ネットワークによる日本での短期プログラムの実施やレガシーをどう残すか、AISTSとして大学連携を支援したい。」



田中理恵（オリンピック）

「大学には、スポーツを通して、礼儀正しい、素晴らしい人間性、頑張ること、努力することを伝えられる人間を育ててもらいたい。」

大学連携における活動実施状況

1) オリンピック教育の推進

① 大学におけるオリンピック講座の開講

◆ 筑波大学（茨城県）

対象：1・2年生

科目：一般教養科目 11コマ

内容：2020年東京大会開催国の一員として、オリンピックに関する国際的教養と基本的知識を身につける。講義題目は、「古代オリンピック」「オリンピック」「芸術競技と文化プログラム」「パラリンピック入門」等

◆ 実践女子大学（東京都）

対象：全学部2年生

科目：共通教育科目 15コマ

内容：「国際理解とキャリア形成」をテーマに、代表的な諸国の動向を学び、そこに働く人々の姿や価値観を知り、これからの時代の日本人としてのキャリア形成のあり方を学ぶ。うち3コマで「2020年大会」を取り上げ、世界と日本の今後の関係について学ぶ。

② 地元小中高等学校等におけるオリンピック教育を支援

◆ 奈良女子大学（奈良県）

対象：附属小学校、附属幼稚園

内容：小学校では、学生がオリンピックの概要を説明し、児童が壁新聞を作成。幼稚園では、金銀銅メダルを使い、オリンピックを知るとともに、目標設定できる保育を実施。



大学連携における活動実施状況

2) グローバル人材育成

① 海外の大学との交流

◆ 京都工芸繊維大学（京都府）

対象：ハノイ医科大学・ホーチミン理科大学・カント大学（ベトナム）、チェンマイ大学（タイ）、マレーシア科学大学（マレーシア）、プサン大学（韓国）の6大学

内容：それぞれの国や地域の文化を紹介するプレゼンテーションの他、学生が講師となり折り紙講習を実施した。言葉の壁が低くなり、活発な交流が実現。

② 外国人への観光案内

◆ 京都外国語大学（京都府）

対象：京都駅周辺の外国人観光客

内容：京都市と連携し、外国人観光客に対し、英語と中国語を話せる学生約10名が、通訳ボランティアを実施。2020年大会に向けた素地教育として展開。

3) パラリンピックの理解促進

障がい者スポーツ大会等における支援

◆ びわこ成蹊スポーツ大学（滋賀県）

対象：県内障がい者スポーツ大会等

内容：地域の知的障がい者へのプール解放及び指導、障がい者スポーツ大会へのボランティア派遣、車いすバスケットボールの授業展開、高校生への体験授業

大学連携における活動実施状況

4) 広報活動

オリンピックに関する展示

◆滋賀大学（滋賀県）

対象：学生、地域住民

内容：学内図書館において、1964年東京オリンピックに関する図書（蔵書）や写真、新聞記事を展示。



5) イベントの開催

①スポーツをテーマにしたイベントの開催

◆立命館大学（京都府）

対象：市内小学生

内容：草津市教育委員会、草津市体育協会と共催で、学生の企画・運営により開催。日頃経験できないラクロス、アメリカンフットボール、アルティメット、ダブルダッチなどの競技体験やチアリーダーによる応援導を行い、小学生のスポーツへの関心を高めた。



②研究セミナーの開催

◆鹿屋体育大学（鹿児島県）

対象：教職員・学生

内容：東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会職員を講師に招き、「2020年大会の準備の現状と課題」をテーマにセミナーを開催。

連携大学 地域巡回フォーラム 実施状況

	開催年月日	ブロック	開催場所	参加者			
				校数	人数	参加者種別	人数
1	平成26年8月6日(水)	中国	福山大学(広島県)	14校	60名	・学生 ・教職員 ・行政 ・組織委員会等	15名 17名 8名 20名
2	平成26年8月8日(金)	四国	高知工科大学(高知県)	4校	60名	・学生 ・教職員 ・行政 ・組織委員会等	32名 12名 5名 11名
3	平成26年9月22日(月)	北海道	北海道大学(北海道)	12校	100名	・学生 ・教職員 ・行政 ・組織委員会等	30名 50名 5名 15名
4	平成26年9月23日(火)	東北	弘前学院大学(青森県)	13校	100名	・学生 ・教職員 ・行政 ・組織委員会等	45名 30名 10名 15名
5	平成26年10月22日(水)	九州	福岡大学(福岡県)	26校	180名	・学生 ・教職員 ・行政 ・組織委員会等	60名 85名 20名 15名
6	平成26年11月5日(水)	東海	中京大学(愛知県)	27校	150名	・学生 ・教職員 ・行政 ・組織委員会等	40名 90名 5名 15名
7	平成26年12月8日(月)	近畿	立命館大学(京都府)	54校	170名	・学生 ・教職員 ・行政 ・組織委員会等	40名 110名 10名 10名

連携大学 地域巡回フォーラム 実施状況

参加者からの主な意見

- ・障がい者スポーツ大会にボランティアで参加し、障がい者スポーツについて理解を深めたい。
- ・教員になって、オリンピックやスポーツへの関心を高めるオリンピック教育を実践したい。
- ・理学療法士を目指しているが、病院勤務を前提とした教育だけではなく、スポーツトレーナーとして活躍できる授業を増やしてもらいたい。
- ・大学同士がチームになって、県出身選手を応援するCMを作ってはどうか。
- ・スポーツの楽しさを知ってもらうとともに地域とのコミュニケーションを図るため、大運動会を開催したい。
- ・オリンピックとパラリンピックの融合を進めたい。



2020年大会に向けて「大学連携」に期待すること

- ① **地元小中高等学校へのオリンピック・パラリンピック教育の支援**
 - ・一校一國運動などへの支援
- ② **各種ボランティアの養成**
 - ・観光おもてなし、障がい者支援等
- ③ **文化プログラムの担い手**
 - ・地域の歴史文化及び若者文化の発信
- ④ **事前キャンプへの協力**
 - ・大学施設の提供及び運営（通訳、競技等）への支援
- ⑤ **大会機運の醸成**
 - ・学園祭等における大会PRイベントの開催

⇒2020年大会後もレガシーとして残るよう、地域や自治体等と連携し、実施していく。